

エンドレスのチェーンコンベヤにケージ4個を、かんらん車状に配置し、1方向に回転させる。ケージが1階と2階のつど中央に着床すると同時に、とびらが開き、油圧ピストンにより、トービンを介して手押車がケージ内に進入する。進入進出は一方通行となっており、定位置に手押車が停止すると油圧ピストンがもどり、とびらが閉じてチェーンコンベヤが移動を開始し、次のケージが着床して停止する。この一連の動きは、全自動、一部自動および手動操作のいずれによっても可能である。

(神保和夫)

りゅうつう 流通(物資の) (英) distribution; marketing

1 流通の概念 流通という言葉の概念規定は、時代により学者によって必ずしも同一ではない。流通とマーケティングは同義語であるとみるもの、あるいは流通はマーケティングの一部だとするものなどいろいろである。たとえばアメリカのヘッカーは、これをマーケティングと同義語とみているし、アメリカマーケティング協会(AMA)も1960年に改訂の定義集において「本委員会はデистриビューションという用語がマーケティングという用語と同義語として使用されることを勧告する」としている。これに対し金谷 璋氏等のように「マーケティングは企業がその主体的立場から自己の製品を消費者に移転する過程であるのに対して、流通とはその移転と表裏の関係にある物理的過程——具体的には、(1) 輸送 (2) 荷造包装 (3) 貯蔵・保管 (4) 荷役・運搬の四つをいう」とする見解もある。

しかし最近では、流通という言葉は流通活動あるいは流通機構または流通経路の意味で使用されているようである。

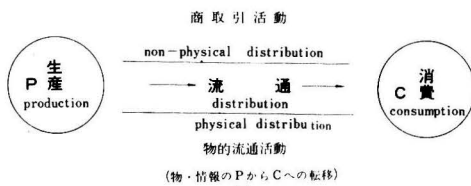
2 流通活動の領域 流通活動というのは、生産と消費をつなぐ経済的な活動、あるいは、いっさいの経済財の空間的、時間的な流れに関する経済活動ということで、次のような領域の全部または一部をさす言葉として用いられている。

- (1) 物質流通活動(実体的な物の流れ)
- (2) 情報流通活動(郵便・電信の送達や情報の保存、保管)
- (3) 商取引活動(商品の売買によって物の転換の媒介をする活動)
- (4) その他の活動(金融・保険・規格・標準化などの活動)

そして、(1)の物質流通活動あるいは、これに(2)の情報流通活動を含めた、いっさいの物の実体的、具体的な流れを物的流通と称し、一方(3)の商取引活動を取引的流通または社会的流通と呼び、両者を区別することが多い。従来は物の流通と商取引活動は一致するのが常識であったが、近ごろでは遊離するケースがふえつつあるからであり、もともと物的流通活動と商取引活動とは概念上は別個な活動とみるべきものだからでもあろう。なお、(3)のその他の活動は流通助成活動とも呼ばれる。

3 流通機構と流通経路 流通が流通機構または流通経路の意味に使われている例としては「流通革命」がある。ここでは流通機構の整備、流通経路の短縮などの問題が論じられている。

(金・権利義務などのPからCへの移転)

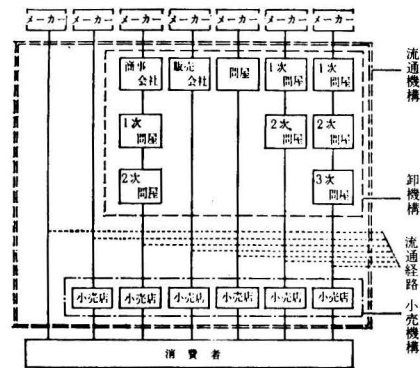


- (1)輸送 (2)荷造包装 (3)貯蔵・保管 (4)荷役・運搬

生産者から消費者に至る財貨またはサービスの転移過程は、それぞれの機能をもつ多数の専門的流通機関(distribution agencies)によって分担されるが、このような全流通機関の有機的な結合が流通機構(distribution channels)である。つまり流通機構とは社会的、経済的にながめた場合に、財貨またはサービスが、生産者から消費者へ流れる経路の組織とすることができる。

企業が自己の製品を流す場合には、流通機構の中から特定の経路を選び出して使用するが、その経路が流通経路(distribution channel)である。それは配給経路とも販売経路とも、あるいはマーケティング経路とも呼ばれ、また単にチャンネルと呼ぶ人もある。流通機構と流通経路とは選択母体と構成分子の関係にある。すなわち、生産者が自らの製品を流通させるための最適経路を選択する選択母体が流通機構であり、その流通機構を形づくる構成分子が流通経路であるということが出来る。しかし、流通機構は流通経路の単なる寄せ集めではなく、それ自身が一つの経済的有機体であり、それ自身の構造と機能をもつものである。

流通機構と流通経路



(ダイヤモンド社・マーケティング読本から転載)

図は流通機構と流通経路の関係を示したものである。

流通経路の形態は、企業の規模により企業の販売政策により、あるいは商品によって、それぞれ異なるが、消費財を例にとれば、最近では「メーカー→小売商→消費者」または「メーカー→卸売商→小売商→消費者」の経路によるものの比重がふえているという。

4 流通技術と鉄道貨物営業 流通活動は以上に述べたように経済財の供給主体と需要主体をつなぐ経済的活動であるから技術的側面をもっている。それを一般に流通技術と呼んでいる。言い換えれば、物的流通に伴うすべての技術が流通技術(physical distribution または distribution techniques)であり、具体的には荷造包装、荷役・運搬、貯蔵・保管、および輸送の四つがその柱となっている。最近、物価問題が関心の的となり、これに伴って商品や企業全体のコストを引き下げするには、生産部門の生産性向上とともに流通部門の生産性向上をはかることが重要であること、そして流通部門の生産性向上には流通機構の近代化と並行して流通技術の近代化をはかることが、企業経営の立場からも経済政策的にも不可欠なことが認識されるようになり、流通技術の革新がクローズアップされるようになってきている。

アメリカでは、最近、物流学(rhocrematics)ということが唱えられているという。流れになった物資移動を科学的に研究し